

高速増殖原型炉もんじゅ 総合防災訓練に係る 5 週間前面談

目次

1. 確認事項整理表	1
2. 中期計画	
2.1 高速増殖原型炉もんじゅ 原子力防災訓練中期計画	10
2.2 敦賀廃止措置実証本部 原子力防災訓練中期計画	12
2.3 機構本部 原子力防災訓練中期計画	13
3. 訓練計画書	
3.1 令和5年度防災訓練計画書	16
3.2 令和5年度防災訓練内容	20
4. 評価資料	
4.1 評価チェックリスト	22
4.2 課題チェックリスト	29
5. 訓練シナリオ	
5.1 敷地図	30
5.2 訓練計画書等を踏まえシナリオに反映すべき事項	32
5.3 防災訓練想定概要	34
5.4 訓練進展フロー	44
5.5 発生事象状況確認シート	46
5.6 事象進展対策シート	48
6. レイアウト	
6.1 高速増殖原型炉もんじゅ 緊急対策室レイアウト	62
6.2 敦賀廃止措置実証本部 緊急時対策室レイアウト	63
6.3 機構本部 緊急時対策室レイアウト	64
7. 情報フロー	
7.1 敦賀廃止措置実証本部 情報フロー	65
7.2 機構本部 情報フロー	74
8. 継続的改善スケジュール	
8.1 高速増殖原型炉もんじゅ 継続的改善スケジュール	75
8.2 敦賀廃止措置実証本部 継続的改善スケジュール	76
8.3 機構本部 継続的改善スケジュール	77
9. 参考資料	
9.1 統合原子力防災ネットワークのTV会議における発話ポイント	78

訓練事前面談時の確認事項整理表

□: マスキング箇所 (シナリオに係る記載、個人情報等)

全般	
・ 中期計画上の今年度訓練の位置づけ	中期計画参照
・ 今年度の訓練目的、達成目標、主な検証項目、実施・評価体制、訓練の項目・内容	訓練計画書参照
・ 評価基準	評価チェックリスト、課題チェックリスト参照
・ 訓練シナリオ	訓練シナリオ資料参照
・ その他	
—ERSS の使用	ERSS 訓練モード用データを伝送して訓練を実施
—COP 様式	訓練シナリオ資料参照
—即応 C、緊対所レイアウト図	機構対策本部 (即応センター) 緊急時対策室、敦賀廃止措置実証本部緊急時対策室、高速増殖原型炉もんじゅ緊急対策室のレイアウト参照
—ERC 対応ブース配席図、役割分担	機構対策本部 (即応センター) のレイアウト参照
—ERC 書架内の資料整備状況	もんじゅ防災業務計画別表 2-4-14 参照 なお、「災害対策資料」を改訂し、訓練前までに再配備する。

指標 1 情報共有のための情報フロー	
・ 情報フロー (前回訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点の有無)	情報フロー参照 (前年度訓練時と変更なし。)

指標 2 ERCプラント班との情報共有	
—	訓練結果を踏まえて評価

指標 3 情報共有のためのツール等の活用	
3-1 プラント情報表示システムの使用（ERSS等を使用した訓練の実施）	
・使用するプラント情報表示システムの説明（実発災時とシステムの差異も説明）	ERSS 訓練モード用データの伝送を実施（実発災時とシステムの差異はない）
3-2 リエゾンの活動	
・事業者が定めるリエゾンの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・即応センターからの情報提供の補足説明 ・資料のコピー及び配布（訓練付与情報含む） ・即応センターの認識のずれ、説明内容が的を射ていない場合の助言 ・ERCからの質問対応
3-3 COPの活用	
・COPの作成・更新のタイミング、頻度	<p>作成・更新のタイミング、頻度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象進展対策シート及び発生事象状況確認シート（様式）は、平時から作成 ・発生事象状況確認シート：EAL 事象が発生し、状況を説明する都度 ・事象進展対策シート：事象の進展状況が分かり次第
3-4 ERC 備付け資料の活用	
・ERC 備付け資料の更新状況	「災害対策資料」を改訂し、訓練 1 週間前までに再配備する。

指標 4 確実な通報・連絡の実施	
①通報文の正確性	
・通報 FAX 送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・通報 FAX 送信前の通報文チェック体制： 対外対応班長作成後、副原子力防災管理者を中心として現地対策本部内で内容、誤植、記載漏れの有無を確認する。 ・通報文に誤記等があった際の対応：

<ul style="list-style-type: none"> ・ 発出した EAL が非該当となった場合の対応 ・ 通報に使用する通信機器の代替手段 	<p>誤記等の状況を下線等で示し、修正版の FAX を送信、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発出した EAL が非該当となった場合の対応： 機機構対策本部 ERC 対応ブース発話者が、ERC TV 会議上で EAL が非該当となった旨発信する。現地対策本からも続報により連絡する。 ・ 通報に使用する通信機器の代替手段： 優先順位 1) 所内の代替 FAX 機 優先順位 2) 衛星 FAX 機 優先順位 3) 敦賀対策本部又は機機構対策本部の FAX 機（もんじゅから電子データで提供）
②EAL 判断根拠の説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・ EAL の判断根拠の説明方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「発生事象状況確認シート」を活用して EAL の判断根拠を説明する。
③10 条確認会議等の対応	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 条確認会議、15 条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 部制訓練のため対応はダミーとする
④25 条報告	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 25 条報告の発出タイミングの考え方 ・ 訓練事務局側が想定する、今回訓練シナリオ上の 25 条報告のタイミング、報告内容（発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し/状況、モニタ・気象情報など）、回数（訓練シナリオ中にも記載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考え方：事象対応やプラント状況について、情報が整理された段階 ・ タイミング：①事象拡大性の判断後、②EAL 非該当判断後、③拡大防止措置の実施及び措置状況の確認後 ・ 報告内容：発生事象の状況と進展予測、プラント状況、応急措置の対応状況、施設の放射線情報、環境放射線等モニタリング情報 ・ 回数： <input data-bbox="1108 1129 1361 1171" type="text"/> <input data-bbox="1108 1177 2063 1219" type="text"/> <input data-bbox="1249 1225 1503 1267" type="text"/>
指標 5 前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する 	<ul style="list-style-type: none"> 課題チェックリスト参照

<p>改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていること、評価項目、評価基準が設定されていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施前に、訓練時における当該改善策の有効性を評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの））が作成されていること 	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他事業所の訓練で対応している場合は、その検証結果 	<p>現地対策本部 No. 1</p> <p>→EAL に該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うことについて、現地対策本部要員に対して「発話ポイント」を用いて再教育した。</p> <p>現地対策本部 No. 2</p> <p>→測定範囲超過により数値のプロットを中断する場合は注釈を記載することを「情報班手引き」に明記し、更新した「情報班手引き」を班員に周知・教育した。</p> <p>現地対策本部 No. 3</p> <p>→ERSS のトレンド表示のスケール変更操作方法を「ERSS 表示用 PC 簡易操作説明書」に明記し配備し、更新した「ERSS 表示用 PC 簡易操作説明書」を班員に周知・教育した。</p> <p>機構対策本部 No. 1</p> <p>→見直した連絡メモを用いて情報整理を行い、発話順について一貫性がある対応ができることを機構内の訓練において確認している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況の説明。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現地対策本部 No. 1」及び「機構対策本部 No. 1」は、今年度訓練にて検証する。 ・「現地対策本部 No. 2」及び「現地対策本部 No. 3」は、12/8 要素訓練で達成状況を検証する。

指標6 シナリオ非提示型訓練の実施状況	
・開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載）及びその設定理由	全てのプレイヤーに対して全てのシナリオを非提示

指標7 シナリオの多様化・難度	
・発災を想定する施設（複数又は全施設）	-（単独発災）
・訓練シナリオのアピールポイント 事態発生時の対応能力の向上を促せるような実効性のある事故シナリオを想定して以下の事項を考慮しているか <ul style="list-style-type: none"> ・原子力災害の発生又は拡大の防止のために行う応急措置として実施する事故対処の能力向上に資する現場実働 ・プラント状態の把握を困難とする想定等、実効性を高める工夫 	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 800px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 600px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 700px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 800px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 600px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 700px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 800px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 600px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 700px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 600px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 600px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 900px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div>

	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 280px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 380px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 240px; height: 20px;"></div>
<p>・場面設定等（3つ以上の付与）</p> <p>発災を想定する施設数、EAL判断状況（数や密度）、同一地域における複数事業所同時発災、発生事象の深刻度、発災原因（自然災害、機器故障など）、プラント状態、場面設定（時間、場所、気象、防災要員の体制、資機材の状態、計器の故障、人為的なミス、オフサイトセンターを想定した要員派遣と支援要請等への対応などプラント以外の状態）、これら要因の複数組み合わせ、シナリオ上の判断分岐となるポイントやマルチファンクションの数、マルチエンディング方式の採用など</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 230px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 140px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 310px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 260px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 130px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 190px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 430px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 170px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 430px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 110px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 220px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div>

<p>・2部訓練については、発生するEALの多様化（前年度と異なるEALの想定等）、通信連絡体制（通報文作成者の不在等）、通信方法の多様性（衛星通信の使用等）が図られているか</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div>
---	---

<p>指標8 広報活動</p>	
<p>・評価要素①～④それぞれについて、対応、参加等の予定</p>	<p>①ERC 広報班と連携したプレス対応：実施せず（JAEA ふげん訓練にて実施済）</p> <p>②記者等の社外プレーヤの参加：実施せず</p> <p>③模擬記者会見の実施：実施せず（JAEA ふげん訓練にて実施済）</p> <p>④情報発信ツールを使った外部への情報発信 ：模擬 HP への掲載を実施せず（JAEA ふげん訓練にて実施済）</p>

<p>指標9 後方支援活動</p>	
<p>・評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲）</p> <p>・一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせて一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その内容</p>	<p>①事業者間の支援活動 ：関西電力及び日本原子力発電に若狭地域原子力事業者支援連携本部への参集の連絡を行い、要員の受け入れを実施。</p> <p>②原子力事業所災害対策支援拠点との連動 ：支援拠点の立ち上げ、要員派遣等の要請を実施。（実働はなし、実動は6/30要素訓練で実施済）</p> <p>③原子力緊急事態支援組織との連動 ：檜葉遠隔技術開発センターへ遠隔資機材要請を実施。（実働はなし、実働は6/30要素訓練で実施済）</p>

指標 10 訓練への視察など	
・他原子力事業所への視察（実績、視察計画）	・他電力事業者の訓練を視察予定（統合防災 NW による視察含む）
・自社訓練の視察受け入れ（即応 C、緊対所それぞれの視察受け入れ可能人数、募集締め切り日）	・統合防災 NW での視聴を受け入れる
・ピアレビュー等の受け入れ（受け入れ者の属性、レビュー内容等）	防災関連のコンサルティング会社のピアレビューを受け入れ、訓練の課題抽出を行う

指標 11 訓練結果の自己評価・分析	
—	訓練後に確認する

指標 12、13 訓練参加率	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所（もんじゅ）の参加予定人数（うち、コントローラ人数） ・即応センターの参加予定人数（うち、コントローラ人数） ・リエゾン予定人数 ・評価者予定人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・もんじゅ：約 100 名、コントローラ 10 名程度予定 ・敦賀実証本部（福井事務所含む）：約 30 名予定 ・機構対策本部（即応センター）：約 30 名、コントローラ 2 名予定 ・4 名予定 ・4 名程度

備考：	
<ul style="list-style-type: none"> ・現場実動訓練の実施内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況：総合防災訓練で実施 <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 250px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 350px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 430px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 180px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 210px; margin-bottom: 5px;"></div>
<ul style="list-style-type: none"> ・事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説 	

<p>明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想定している主要な事象について、あらかじめ訓練シナリオを開示しているコントローラが訓練をコントロールする。 ・マルファンクション付与: コントローラによる情報付与 ・連携状況: 発災現場、中央制御室、緊急対策室、即応センター ・他事業者評価: なし
<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画見直し 	<p>別途、各資料参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構大中期計画作成方針: 2023. 6. 20 改正 ・機構対策本部中期計画: 2023. 6. 20 改正 ・敦賀対策本部中期計画: 2023. 5. 8 改正 ・高速増殖原型炉もんじゅ中期計画: 2023. 11. 8 改正
<ul style="list-style-type: none"> ・10条通報に要した時間 	<p>訓練後に確認する</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標だけで表せない取組等 <p>○現場にいる協力企業等の対応の考え方</p> <p>発災時に構内で多数の作業者がいる場合を想定して、これらの者の避難活動により現場実働に支障が出ることがないか、これらの者の安全を確保できるのか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社員、外来者を含む従業員に対し、避難先の案内等の注意喚起、人員点呼を行い、安否確認を行う。 <p>また、屋内退避等の指示は館内放送で周知する（屋内退避等は一部の従業員で実施）。</p>

高速増殖原型炉もんじゅ 原子力防災訓練中期計画（令和4年度～令和6年度）（改訂2）

今中期計画の目的	もんじゅ廃止措置中に想定されるトラブル、EAL判断状況、発生事象の深刻度、発生原因、プラント状況、場面設定、マルファンクションなどでシナリオの高度化、多様化を図り、このような状況下においても、現場では情報共有を含めた災害応急活動が実施できるとともに、現地対策本部から機構内外へ情報共有ができること。				
前中期計画の課題	今中期計画期間中の訓練目標 (目指すべき姿)	年次計画			次期(令和7年度～令和9年度) 中期計画の方針及び実施の概要
		令和4年度	令和5年度 <u>(2部制)</u>	令和6年度 <u>(1部制)</u>	
なし	<p>訓練目標①</p> <p>EAL事象やもんじゅ廃止措置中に想定されるトラブル等が発生した際に、現地対策本部で情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報を提供できる。</p>	<p>大地震発生により、EAL事象やもんじゅ廃止措置中に想定されるトラブルが発生した際に現地対策本部で災害対策資料を活用して情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報を提供できること。</p>	<p><u><第1部・2部訓練で実施></u></p> <p>大地震が発生し、大津波警報が発表された状態において、EAL事象やもんじゅ廃止措置中に想定されるトラブル（機器解体準備・解体作業中における事故等）が発生した際に現地対策本部で災害対策資料を活用して情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報を提供できること。</p>	<p>広域で大地震が発生し、<u>近隣拠点「ふげん」と同時発生した場合を想定し、EAL事象やもんじゅ廃止措置中に想定されるトラブル（機器解体準備・解体作業中における事故等）が発生した際に現地対策本部で災害対策資料を活用して情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報を提供できること。</u></p> <p>（前年度と異なるプラント状況や場面設定を付与する） （前年度の課題がある場合は、改善策が有効に機能していること。）</p>	<p>1. 方針</p> <p>機構大中期計画に基づき、原子力防災組織が原子力災害発生時に有効に機能することを確認する。訓練を通じてPDCAを回しながら更なる改善を図る。</p> <p>2. 訓練目的</p> <p>難度を高めた訓練想定を設定し、現地対策本部、中央制御室（現場）及び原子力施設事態即応センターにおける応急措置対策の対応力、防災要員等のスキルアップを目的とする。</p> <p>3. 訓練目標</p> <p>(1) EAL事象が発生した際、現地対策本部で情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報提供ができること。</p>
	<p>訓練目標②</p> <p>予期せぬ複数のトラブルが発生した際に対応できる。（例：負傷者又は汚染者の発生、通信機器の不具合等）</p>	<p>大地震発生により、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負傷・汚染者が発生した際に除染・搬送等の対応ができること。 ・通信機器の不具合が発生した際に代替手段により対応できること。 ・事故拡大防止策対応設備の不具合が発生した際に対応できること。 	<p>シナリオ非提示のため マスキング</p>	<p>広域で大地震が発生し、予期せぬ複数のトラブルが発生した際に対応できること。</p> <p>（前年度と異なるプラント状況や場面設定を付与する） （前年度の課題がある場合は、改善策が有効に機能していること。）</p>	<p>(2) 予期せぬ複数のトラブルが発生した際に対応できること。</p> <p>4. 訓練想定</p> <p>事象進展により全面緊急事態に至る原子力災害を想定することとし、毎年度、発生想定事象に伴う対応が同様とならないように、異なるプラント状況や場面設定を付与することにより、シナリオの多様性を図る。</p> <p>5. 訓練項目</p> <p>訓練項目及び訓練目標を踏まえた訓練項目を計画する。</p>

前年度(令和4年度)訓練の課題	訓練想定及び訓練項目の方針	令和4年度	令和5年度	令和6年度	改訂履歴
<p><問題点> 現地对策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01の「事象進展対策シート」の対策の方針Bの「準備」に関する項目について、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行わなかった。</p> <p><課題> 現地对策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01に係る「準備」、「対策」に関する項目について、現地对策本部から機構TV会議システムで適宜発話していたものの、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができていない。</p> <p><対策> 現地对策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うことについて、現地对策本部要員に対して「発話がポイント」を用いて再教育を行うとともに、今後の訓練を通じて習熟を図っていく。</p> <p><更なる改善事項①> 災害対策資料のEAL30添付図-2「EAL30使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失・放射線放出 燃料池水位と放射線モニタ指示値AL、SE、GE到達予想時刻」に原子炉補助建物ガンマ線エリアモニタ放射線当量率の数値をプロットし情報共有していたが、測定範囲を超過した際に注釈を記載しなかったため、途中でプロットが中断された理由が分かりにくかった。</p> <p><対策> 災害対策資料を用いた情報共有において、測定範囲超過により数値のプロットを中断する場合は注釈を記載することを「情報班手引き」に明記する。</p> <p><更なる改善事項②> 現地对策本部内で情報共有していたERSSのモニタリングポストのトレンド表示について、空間線量率が急上昇した際にスケール変更操作に手間取り1~2分程オーバースケールさせてしまった。</p> <p><対策> ERSSのトレンド表示のスケール変更操作方法を「ERSS表示用PC簡易操作説明書」に明記し配備する。</p> <p>⇒課題は、訓練項目(1)で達成状況を検証する。更なる改善事項①及び②は、要素訓練で達成状況を検証する。</p>	<p>訓練想定</p> <p>(方針) 毎年度、発生想定事象に伴う対応が同様とならないように設定する。</p>	<p>高速増殖原型炉もんじゅにおいて、事象進展により全面緊急事態に至る原子力災害を想定した総合訓練を行う。</p>	<p>高速増殖原型炉もんじゅにおいて、全面緊急事態に至る可能性を考慮した「現実的なシナリオに基づく対応訓練」(第1部訓練)、事象進展により全面緊急事態に至る原子力災害を想定した「緊急対策所や本部の対応訓練」(第2部訓練)を行う。</p>	<p>高速増殖原型炉もんじゅにおいて、事象進展により全面緊急事態に至る原子力災害を想定した「緊急対策所や本部の対応訓練」を行う。</p>	<p>改訂年月日</p> <p>改定内容</p> <p>改定理由</p> <p>2022年10月28日</p> <p>新規制定</p> <p>—</p> <p>2023年5月12日</p> <p>所見・考察を記載</p> <p>—</p> <p>2023年11月8日</p> <p>2部制訓練に向けた見直し</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>
	<p>訓練項目</p> <p>(方針) 「原子力事業者防災業務計画」に基づき、機構対策本部及び敦賀対策本部と合同による総合防災訓練(その他の訓練含む。)を行い、原子力機構内における対策本部設置運営、情報連絡、技術的検討、もんじゅ現地对策本部の支援等が円滑に行われることを確認する。訓練では、以下の内容を適宜組み合わせで行う。 なお、組み合わせ実施しない項目については、個別に訓練を行う。</p> <p>(1)要員参集訓練 事象発生により緊急時応急対応要員を参集し、本部の設営を行う。</p> <p>(2)通報訓練 事象発生から終結までの情報を収集し、関係個所に通報、連絡を行う。</p> <p>(3)緊急時環境モニタリング訓練 もんじゅ施設内及びもんじゅ施設周辺について、モニタリングカーによる空間放射線量率及び空気中ヨウ素濃度の測定等を行う。</p> <p>(4)もんじゅ施設内避難者誘導 本部からの避難誘導指示に基づき、協力会社社員、外来者及び災害対策活動に従事しない所員について、避難誘導者により指定された集合・避難場所に誘導する。</p> <p>(5)原子力災害医療訓練 管理区域内での負傷者発生を想定し、負傷者搬出、汚染除去及び応急処置等の対応を行う。</p>	<p>訓練方針に加え、訓練目標を踏まえて以下を重点項目として設定し訓練する。 なお、もんじゅ現地对策本部(緊急対策所)内の本部要員等に対してシナリオ非提示型の訓練とする。</p> <p>(1)現地对策本部と機構対策本部及び敦賀対策本部との情報共有訓練(訓練目標①の確認)</p> <p>(2)現地对策本部における応急対応訓練(訓練目標②の確認)</p>	<p>訓練方針に加え、訓練目標を踏まえて以下を重点項目として設定し訓練する。 なお、もんじゅ現地对策本部(緊急対策所)内の本部要員等に対してシナリオ非提示型の訓練とする。</p> <p>(1)現地对策本部と機構対策本部及び敦賀対策本部との情報共有訓練(訓練目標①、前年度訓練の課題の確認)</p> <p>(2)現地对策本部における応急対応訓練(訓練目標②の確認)</p>	<p>継続実施 (前年度の訓練の課題を踏まえ、必要に応じて、訓練項目を修正する。)</p>	
		所見・考察			
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
		<p>・敦賀市で震度6弱等の大地震が発生し、EAL事象や燃料体吊上げ状態での燃料移送機停止が発生した際に、災害対策資料を活用して情報を整理し、機構内外に正確な情報を提供できることを確認した。(訓練目標①)</p>	<p>令和5年度の訓練結果を踏まえて記載する。</p>	<p>令和6年度の訓練結果を踏まえて記載する。</p>	
		<p>・敦賀市での震度6弱等の大地震発生により、複数のトラブルが発生した際に対応できることを確認した。(訓練目標②)</p>			

敦賀対策本部 原子力防災訓練中期計画（令和4年度～令和6年度）

今中期計画の目的		大規模な自然災害の発生の想定等、高度化、多様化が図られたシナリオの状況下においても、敦賀対策本部として情報を集約して、機構対策本部、現地対策本部及び外部関係機関と情報共有できること。		
今中期計画期間中の訓練目標 (目指すべき姿)		年 次 計 画		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
訓練目標 ①	敦賀対策本部の一部の本部要員の不在、TV会議システム等の通信機器の不調、高度化・多様化が図られたシナリオの状況下においても機構内外と適切な情報共有を図ることができる。	高度化・多様化が図られたシナリオの状況下において、一部の本部要員の不在を想定し、機構内外と適切な情報共有を図ることができること。	シナリオ非提示のため マスキング	高度化・多様化が図られたシナリオの状況下において、一部の本部要員の不在及び通信機器の不調を想定し、機構内外と適切な情報共有を図ることができること。(継続実施)
訓練想定		対象拠点(ふげん、もんじゅ)において、事態進展により全面緊急事態に至る原子力災害を想定した総合訓練を行う。		
訓練項目		機構内及びERCとの情報共有訓練		
所見・考察		令和4年度 ・機構TV会議システム等を用いて情報を収集し、機構内で情報を共有することができた。(訓練目標①) ・統合原子力防災ネットワークTV会議システムを用いて機構対策本部を補佐し、ERCと情報共有することができた。(訓練目標①) ・事象発生時に班長2名が不在な状況においても、代理者が代行して指揮、情報収集等ができた。(訓練目標①)	令和5年度 令和5年度訓練結果を踏まえて記載する。	令和6年度 令和6年度訓練結果を踏まえて記載する。

機構本部原子力防災訓練中期計画（令和 4 年度～令和 6 年度）

機構本部の緊急時対応組織が原子力災害発生時に有効に機能することを確実にするため、機構大中期計画作成方針を踏まえて機構本部の中期計画を策定し、計画的な訓練を実施する。

1. 今期の中期目標（目指すべき姿）

大規模な自然災害の発生を想定し、複数拠点（2 拠点）で原子力災害が発生した場合においても、原子力施設事態即応センターが情報を集約して原子力規制庁緊急時対策センター（ERC）に対して提供できること。

2. 年次計画

シナリオ非提示型として、中期目標のステップアップを図れるよう各年度の防災訓練における訓練テーマを以下のとおり設定する。

令和 4 年度	①「複数拠点発災時の情報共有体制に係る課題の抽出」 2 拠点での原子力災害発生 ②「ERC 対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成
令和 5 年度	①「複数拠点発災時の情報共有体制の確立」 2 拠点での原子力災害発生（令和 4 年度訓練より多様性を図ったシナリオの設定） ②「ERC 対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成（継続実施）
令和 6 年度	①「複数拠点発災時の情報共有体制の習熟」 2 拠点での原子力災害発生（令和 5 年度訓練より多様性を図ったシナリオの設定） ②「ERC 対応に係る統括者及び発話者の習熟」 統括者及び発話者の力量向上、新規選任者の育成（継続実施）

訓練テーマ①の複数拠点同時発災時の対応については、以下の拠点訓練にて検証する。

令和 4 年度：原子力科学研究所、核燃料サイクル工学研究所

令和 5 年度：原子力科学研究所、大洗研究所

令和 6 年度：核燃料サイクル工学研究所、大洗研究所

高速増殖原型炉もんじゅ、新型転換炉原型炉ふげん

訓練テーマ②の ERC 対応者の習熟については、各拠点訓練にて検証する。

なお、訓練テーマ①、②を達成するために、防災訓練前に必要な教育・訓練を実施する。

3. 訓練項目

以下の項目を基本とし、必要に応じて訓練項目を追加する。

- ・ 機構内及び ERC との情報共有訓練
- ・ 原子力事業所災害対策支援拠点及び原子力緊急事態支援組織との連携訓練

4. 評価

各年度における訓練が終了後、中期目標の達成状況の評価を実施する。

以上

訓練評価結果

・各年度訓練の実施結果

	実施結果
令和4年度	<p>2 拠点での原子力災害発生を想定した訓練を実施し、複数拠点発災時の機構内における情報共有体制に係る改善事項を抽出できた。抽出した改善事項は次年度訓練で検証する。なお、機構本部から ERC へ情報提供については概ね良好に実施できたことを確認した。</p> <p>また、ERC 対応に係る統括者及び発話者については、新規選任者の育成含めて各拠点訓練を通じて習熟を図り、統括者については計3名、発話者については計7名を養成できたことを確認した。人事異動により流動的となることから、今後も継続的に養成していく必要がある。</p>
令和5年度	令和5年度の訓練実施後に記載する。
令和6年度	令和6年度の訓練実施後に記載する。

・今期中期目標に対する評価

令和6年度の訓練実施後に記載する。

令和5年度高速増殖原型炉もんじゅ総合防災訓練について

1. 訓練目的

本訓練では、高速増殖原型炉もんじゅ 原子力防災訓練中期計画（令和4年度～令和6年度）に基づき、高速増殖原型炉もんじゅ（以下「もんじゅ」という。）で緊急時活動レベル（以下「EAL」という。）事象の発生を想定し、国、自治体等へ正確に情報提供等を行える対応体制、前年度から改善を図った事項の有効性を確認する。

2. 達成目標

原子力防災訓練中期計画を踏まえ、以下の達成目標を設定する。

(1) もんじゅ現地対策本部（以下「現地対策本部」という。）

- ① 大地震が発生し、大津波警報が発表された状態において、EAL事象やもんじゅ廃止措置中に想定されるトラブル（機器解体準備・解体作業中における事故等）が発生した際に現地対策本部で災害対策資料を活用して情報を整理し、敦賀対策本部、機構対策本部及び機構外（自治体等）に正確な情報を提供できること。【第1部訓練及び第2部訓練】
- ② 大地震発生により、予期せぬ複数のトラブルが発生した際に対応ができること。【第1部訓練】
- ③ 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。【第1部訓練】
・課題)

現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01に係る「準備」、「対策」に関する項目について、現地対策本部から機構TV会議システムで適宜発話していたものの、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができていない。

(2) 敦賀対策本部

- ① ERC対応者は、現地対策本部から入手した情報に基づき、機構対策本部を補佐し、ERCへ正確な情報提供ができること。また、敦賀対策本部要員も現地対策本部から情報を入力し、適切な対応をとり、機構内に正確な情報提供ができること。【第1部訓練】

- ②

--

--

(3) 機構対策本部

- ① 機構対策本部ERC対応ブースの統括者及び発話者の対応について習熟が図れること。【第1部訓練】
- ② 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。【第1部訓練】
・課題)

発話前に説明内容を十分に整理してから発話できず、断片的な情報共有となった。

3. 主な検証項目

(1) 現地対策本部

① 現地対策本部は、災害対策資料を活用してEAL事象の発生状況及び応急措置を整理し、機構TV会議システム等を用いて敦賀対策本部及び機構対策本部に情報提供できること。また、FAX等により機構外（自治体等）に情報提供できること。【第1部訓練及び第2部訓練】

② 現地対策本部は、以下の通り、トラブルが発生した際に応急の指示・対応ができること。
【第1部訓練】

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

③ 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。【第1部訓練】

・改善策の検証1)

現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができること。

(2) 敦賀対策本部

① ERC対応者は、現地対策本部から機構TV会議システムにより情報を入手し、統合防災ネットワークシステムに接続されたTV会議システムにより、機構対策本部を補佐し、想定される対策の情報を含めERCへ正確な情報提供ができること。また、敦賀対策本部要員は機構TV会議システムにより、現地対策本部から情報を入手し、原子力事業所災害対策支援拠点の立上げ等の適切な対応をとり、機構内に正確な情報提供ができること。【第1部訓練】

②

[Redacted]

[Redacted]

(3) 機構対策本部

① 機構対策本部ERCブースの統括者及び発話者が連携し、「発話ポイント*」を意識したERCとの情報共有ができること。【第1部訓練】

* 報告内容のポイントを整理した発話例（別紙参照：参考資料9.1「統合原子力防災ネットワークのTV会議における発話ポイント」）

② 前年度訓練の課題に対する改善策の有効性を確認すること。【第1部訓練】

・改善策の検証1)

5W1Hを意識してERCへ分かりやすく説明できること。

4. 実施日時

第1部訓練：令和5年12月22日（金） 13時30分～15時00分（予定）

第2部訓練：令和5年12月22日（金） 10時00分～11時00分（予定）

5. 実施場所

もんじゅ（現地対策本部）

敦賀廃止措置実証本部（敦賀対策本部）

機構本部（原子力施設事態即応センター：機構対策本部）

6. 訓練想定

(1) 事象発生時間帯

平日勤務時間帯を想定（訓練時間は当日実時間で進行）

(2) 訓練対象施設

もんじゅ

(3) 事象想定

第1部訓練：大規模地震（震度6弱：AL）が発生し、これに起因したトラブル事象の発生を想定する。

第2部訓練：大規模地震（震度6弱：AL）が発生し、これに起因した原災法第10条及び第15条事象が発生したこと想定する。

7. 訓練項目（詳細は、添付資料－1参照）

※：「その他の訓練」を示す。

7. 1 第1部訓練

(1) 現地対策本部における訓練

- ①要員参集訓練
- ②通報訓練
- ③緊急時環境モニタリング訓練
- ④もんじゅ施設内退避者誘導訓練
- ⑤原子力災害医療訓練
- ⑥現地対策本部と敦賀対策本部及び機構対策本部との情報共有訓練 ※
- ⑦現地対策本部における応急対応訓練 ※

(2) 敦賀対策本部における訓練

- ①機構内及びERCとの情報共有訓練 ※
- ②原子力災害対策支援拠点との連携訓練 ※

(3) 機構対策本部における訓練

- ①機構内及びERCとの情報共有訓練 ※

7. 2 第2部訓練

(1) 現地対策本部における訓練

- ①通報訓練

8. 訓練形式

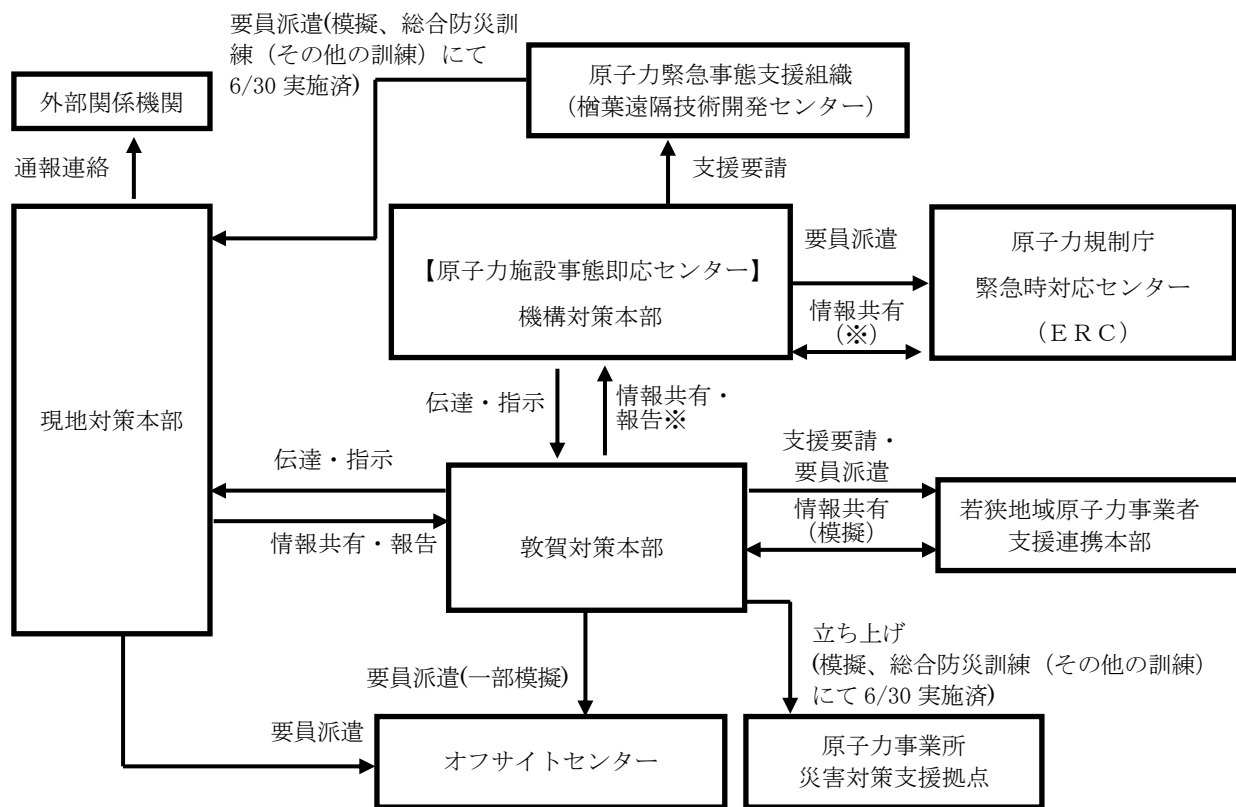
シナリオ非提示型

9. 訓練の進行

コントローラからの条件付与により進行する。

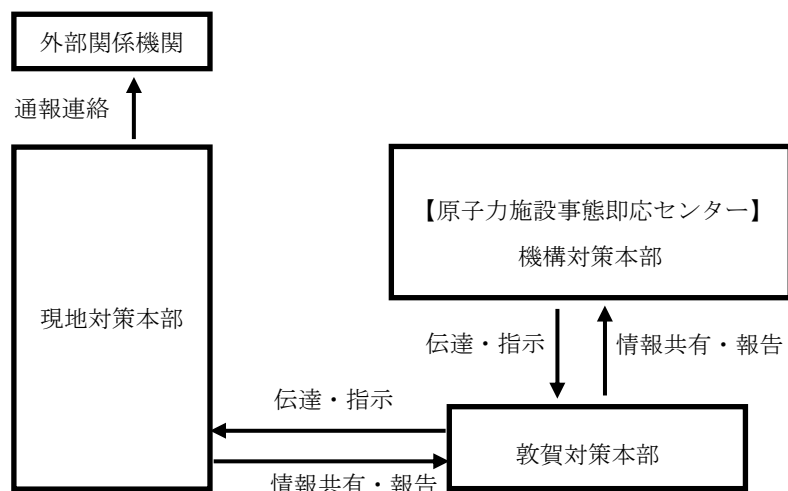
10. 実施体制、評価体制

<実施体制（第1部訓練）>



※統合原子力防災ネットワークシステムに接続されたTV会議システムによる情報共有

<実施体制（第2部訓練）>



<評価体制（第1部及び第2部訓練）>

- 評価のためのチェックリストを作成し活用する。(詳細は、添付資料-2参照)
- もんじゅ内外から選出された訓練モニタ及び外部機関の有識者により、第三者の視点から課題の抽出を図る。
- 訓練参加者による反省会等を通して実施状況を評価する。

令和5年度 高速増殖原型炉もんじゅ原子力防災訓練内容について [1/2]

○現地対策本部における主な訓練

訓練項目	訓練概要	訓練内容
①要員参集訓練 【第1部訓練】	○現地対策本部要員等の参集訓練を実施	イ) 事象発生により緊急時応急対策対応要員を参集し、現地対策本部の設営を行う。
②通報訓練 【第1・2部訓練】	○もんじゅ内外関係箇所への通報連絡を実施	イ) 事象発生から終結までの情報を収集し、関係各所に通報、連絡を行う。
③緊急時環境モニタリング訓練 【第1部訓練】	○環境モニタリング及び情報共有の訓練を実施	イ) もんじゅ施設内及びもんじゅ施設周辺について、モニタリングカーによる空間放射線量率及び空气中ヨウ素濃度の測定等を行う。
④もんじゅ施設内退避者誘導訓練 【第1部訓練】	○災害対策活動に従事しない所員及び協力会社の避難訓練を実施	イ) 現地対策本部からの退避誘導指示に基づき、協力会社社員、外来者及び災害対策活動に従事しない所員について、退避誘導者により指定された集合・退避場所に誘導する。
⑤原子力災害医療訓練 【第1部訓練】	○被ばく・負傷者の救護訓練を実施	イ) 管理区域内での負傷者発生を想定し、負傷者搬出、汚染除去及び応急処置等の対応を行う。
⑥現地対策本部と敦賀対策本部及び機構対策本部との情報共有訓練 【第1部訓練】	○現地対策本部と敦賀対策本部及び機構対策本部で情報共有訓練を実施	イ) EAL事象の発生、または、EAL事象に該当する予兆を把握した際、現地対策本部で災害対策資料を活用して情報を整理し、機構TV会議システムや書画装置を活用して敦賀対策本部及び機構対策本部に情報提供を行う。
⑦現地対策本部における応急対応訓練 【第1部訓練】	○トラブルに対する応急対応訓練を実施	イ) 原子力災害の発生又は拡大の防止のために行う応急措置として実施する事故対処の能力向上に資する事象を付与し、現地対策本部で応急の指示・対応（現場実働）を行う。 ロ) 過去に設定したことがないプラント状態、場面設定を付与し、現地対策本部で応急の指示・対応を行う。 ハ) その他トラブル発生を付与し、現地対策本部で応急の指示・対応を行う。

令和5年度 高速増殖原型炉もんじゅ原子力防災訓練内容について [2/2]

○敦賀対策本部における主な訓練

訓練項目	訓練概要	訓練内容
①機構内及びE R Cとの情報共有訓練【第1部訓練】	○機構内及びE R Cとの情報共有訓練を実施	イ) 地震発生後の被災状況及びその対応状況、E A L事象の発生状況等について、機構T V会議システムや書画装置を活用した機構内の情報共有を行う。 ロ) 機構内から入手するプラント情報等について、機構対策本部が行う統合原子力防災ネットワークを活用したE R Cプラント班との情報共有を補佐する。
②原子力事業所災害対策支援拠点との連携訓練【第1部訓練】	○原子力事業所災害対策支援拠点の立ち上げ指示等を実施	イ) 原子力事業所災害対策支援拠点の立ち上げを指示し、派遣要員の体制を確認する。(立ち上げ及び要員派遣は総合防災訓練(その他の訓練)により実施) ロ) オフサイトセンターへの要員派遣を指示し、派遣要員の体制を確認する。(要員派遣は模擬) ハ) 若狭地域原子力事業者支援連携本部への支援要請及び要員受入れを行う。

○機構対策本部(即応センター)における主な訓練

訓練項目	訓練概要	訓練内容
①機構内及びE R Cとの情報共有訓練【第1部訓練】	○機構内及びE R Cとの情報共有訓練を実施	イ) プラント情報等について、機構T V会議システムや書画装置を活用した機構内の情報共有を行う。 ロ) 機構内から入手するプラント情報等について、統合原子力防災ネットワークを活用したE R Cプラント班との情報共有を行う。

以 上

評価チェックリスト(現地対策本部) 【第1部訓練用】

確認	A:良好 B:概ね良好(改善事項あり) C:一層の努力が必要 -:該当なし又は確認できず
----	---

(1) 現地対策本部における訓練

【評価者(氏名)】

項目	評価基準	確認	評価(良好事例、改善事項等)
①要員参集訓練	現地対策本部要員は、所内放送装置による原子力防災管理者からの招集指示に従い緊急対策室に参集できたか。		
	現地対策本部の各班長は、参集状況を確認して活動体制を整えることができたか。		
	原子力防災管理者は、現地対策本部を設置できたか。		
②通報訓練	対外対応班は、もんじゅで発生した EAL 事象の通報文を作成できたか。		
	対外対応班は、副原子力防災管理者を中心に通報文を確認し、内容、誤植、記載漏れなく作成できたか。(指標 4)		
	対外対応班は、通報文に誤記等があった場合、誤記等の状況を下線等で示し、修正版の FAX を送信することができたか。(指標 4)		
	対外対応班は、発出した EAL が非該当となった場合、機構対策本部 ERC 対応ブース発話者が ERC TV 会議上で EAL が非該当となった旨発信した後に、続報により連絡することができたか。(指標 4)		
	通報連絡班は、ERC を含む国、自治体、機構内他拠点等の関係箇所へ一斉同報 FAX による通報連絡を行い、FAX 送付後、電話による着信確認を実施できたか。また、EAL 事象以外についても、同様に通報連絡できたか。(達成目標 (1) ①)		
	現地対策本部は、原災法第 10 条事象及び第 15 条事象の通報文について、現地対策本部長の判断後、15 分以内に一斉同報 FAX により通報連絡できたか。		
	現地対策本部は、警戒事態該当事象、または、特定事象が発生した際に、「警戒事態該当事象発生後の経過連絡様式」、「応急措置の概要報告様式(原子炉施設)」を 30 分毎に FAX 送付できたか。(指標 4)		

項目	評価基準	確認	評価(良好事例、改善事項等)
	<p>現地対策本部より送付した FAX の補足説明図面について、受信した側からみて視認できない箇所がなかったか。(指標 4)</p>		
	<p>情報班は、通報連絡班が実施する通報連絡の機器操作を支援できたか(所内代替 FAX 及び衛星 FAX による操作等)。</p>		
<p>③緊急時環境 モニタリング 訓練</p>	<p>放射線管理班は、平常時の環境モニタリング(空間放射線量率、風向・風速等の気象観測)に加え、モニタリングカーにより、もんじゅ施設内、もんじゅ施設周辺の空間放射線量率及び空气中ヨウ素濃度の測定を行い、定期的に現地対策本部へ報告できたか。</p>		
<p>④もんじゅ 施設内退避者 誘導訓練</p>	<p>もんじゅ施設内の従業員等は、所内放送装置による緊急地震速報を受け、ヘルメットの着用、机の下等で身を守る安全確保行動をとることができたか。</p>		
	<p>総務班は、現地対策本部長の指示を受け、もんじゅ施設内の従業員等に対して所内放送装置により、避難場所(総合管理棟内食堂)への集合を指示できたか。</p>		
	<p>総務班は、集合場所での人員点呼を行い、点呼完了後にバスによる研究棟への退避誘導ができたか(従業員等のバス乗車は模擬)。</p>		
<p>⑤原子力災害 医療訓練</p>	<p>[Redacted]</p>		
	<p>[Redacted]</p>		
	<p>[Redacted]</p>		
	<p>[Redacted]</p>		
	<p>[Redacted]</p>		
<p>⑥現地対策本部 と敦賀対策本 部及び機構対</p>	<p>現地対策本部は、EAL 事象の発生、または、EAL 事象に該当する予兆を把握した際、災害対策資料を活用して EAL 事象の発生状況及び応急措置を整理し、機構 TV 会議システム及び書画装置により「発生事象状況確認シート」、「事象進展対</p>		

項目	評価基準	確認	評価(良好事例、改善事項等)
策本部との情報共有訓練	策シート」等の視覚情報を用いて敦賀対策本部及び機構対策本部と適時情報共有できたか。(達成目標 (1) ①・③)		
	情報専任者は、原災法第10条事象への進展後及び原災法第15条事象への進展後にブリーフィングを実施し、簡潔に短時間で発生事象に係る対応状況、進展予測・対策等について説明し、機構対策本部と情報共有できたか。		
⑦現地対策本部における応急対応訓練	原子力災害の発生又は拡大の防止のために行う応急措置として実施する事故対処の能力向上に資する事象を付与し、現地対策本部で応急の指示・対応 (<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>) を行う。		
	過去に設定したことがないプラント状態、場面設定を付与 (<input type="text"/> <input type="text"/>) した際に、応急の指示・対応ができること。(達成目標 (1) ②)		
	その他トラブル発生を付与 (<input type="text"/> <input type="text"/>) し、現地対策本部で応急の指示・対応を行う。		

評価チェックリスト(現地対策本部) 【第2部訓練用】

確認	A:良好 B:概ね良好(改善事項あり) C:一層の努力が必要 -:該当なし又は確認できず
----	---

(1) 現地対策本部における訓練

【評価者(氏名)】

項目	評価基準	確認	評価(良好事例、改善事項等)
②通報訓練	対外対応班は、もんじゅで発生した EAL 事象の通報文を作成できたか。		
	対外対応班は、副原子力防災管理者を中心に通報文を確認し、内容、誤植、記載漏れなく作成できたか。(指標 4)		
	対外対応班は、通報文に誤記等があった場合、誤記等の状況を下線等で示し、修正版の FAX を送信することができたか。(指標 4)		
	対外対応班は、発出した EAL が非該当となった場合、機構対策本部 ERC 対応ブース発話者が ERC TV 会議上で EAL が非該当となった旨発信した後に、続報により連絡することができたか。(指標 4)		
	通報連絡班は、ERC を含む国、自治体、機構内他拠点等の関係箇所へ一斉同報 FAX による通報連絡を行い、FAX 送付後、電話による着信確認を実施できたか。また、EAL 事象以外についても、同様に通報連絡できたか。(達成目標 (1) ①)		
	現地対策本部は、原災法第 10 条事象及び第 15 条事象の通報文について、現地対策本部長の判断後、15 分以内に一斉同報 FAX により通報連絡できたか。		
	現地対策本部は、警戒事態該当事象、または、特定事象が発生した際に、「警戒事態該当事象発生後の経過連絡様式」、「応急措置の概要報告様式(原子炉施設)」を 30 分毎に FAX 送付できたか。(指標 4)		
	現地対策本部より送付した FAX の補足説明図面について、受信した側からみて視認できない箇所がなかったか。(指標 4)		
	情報班は、通報連絡班が実施する通報連絡の機器操作を支援できたか(所内代替 FAX 及び衛星 FAX による操作等)。		

項目	評価基準	確認	評価(良好事例、改善事項等)
	通報連絡班は、通信機器の不具合が発生した際に、代替手段による通報、連絡を行うことができたか。		

評価チェックリスト（敦賀対策本部）【第1部訓練用】

確認	A：良好 B：概ね良好（改善事項あり） C：一層の努力が必要 －：該当なし又は確認できず
----	---

(1) 機構内及びERCとの情報共有

【評価者（氏名）】

項目	評価基準	確認	評価（良好事例、改善事項等）
機構内の情報共有	事象発生時に班長等が不在な状況において代理者が代行して指揮、情報収集等の対応ができたか。（達成目標(2)②）		
	大規模地震発生時における初動時に、近隣拠点の主要施設の運転状況、地震点検結果（異常の有無）を収集できたか。		
	現地対策本部からプラント情報、EALの判断基準、今後の事象進展等に関する情報（ブリーフィング情報を含む）を収集できたか。特に視覚情報（COPシート等）を収集できたか。		
	現地対策本部の機構TV会議システムに支障が発生した際、現地対策本部に対して、代替手段の活用又は復旧の補助ができたか。		
	機構TV会議システムにおいて発話が統制され、「発話が重なる」「時間の発話がない」「復唱がされない」などに注意して発話することができたか。		
ERCとの情報共有	現地対策本部からの情報に基づき、機構対策本部のERC対応を補佐し、ERCに対して、想定される対策の情報を含め正確な情報提供ができたか。（達成目標(2)①）		

(2) 原子力災害対策支援拠点との連携

【評価者（氏名）】

項目	評価基準	確認	評価（良好事例、改善事項等）
原子力災害対策支援拠点との連携	原子力事業所災害対策支援拠点の立ち上げを指示し、派遣要員の出動準備を行うことができたか。（立ち上げ及び要員派遣は総合防災訓練（その他の訓練）により実施）		
	オフサイトセンターへの要員派遣を指示し、派遣要員の出動準備を行うことができたか。（要員派遣は模擬）		
	若狭地域原子力事業者支援連携本部への支援要請及び要員受入れを行うことができたか。		

確認 A：良好
 B：概ね良好（改善事項あり）
 C：一層の努力が必要
 -：該当なし又は確認できず

(1) 機構内及びERCとの情報共有

【評価者（氏名）】

項目	評価基準	確認	評価（良好事例、改善事項等あれば記載）
機構内の情報共有	現地対策本部等から共有されるプラント情報、今後の事象進展等について、内容に不足があれば機構TV会議システムを通して適宜、現地対策本部等に確認を行い、必要な情報を収集することができたか。		
ERCとの情報共有	ERCに対して応答確認【ERC宜しいか?】を実施したうえで情報発信できたか。また、適宜相手の理解確認【ここまで宜しいか?】ができたか。		
	書画装置で視覚情報（「事象進展対策シート」等）を活用しながら、分かりやすい情報発信ができていたか。		
	Q&A管理表を活用して、質問に対して漏れなく回答できたか。		
	通信機器に支障が発生した際（マルファンクション含む）、速やかに復旧又は代替手段を活用できたか。		
	統括者の指示のもとで、ホットライン等を活用した拠点への情報収集及びERCへの情報発信が実施できたか。		
	発話ポイントを意識した情報発信が行えたか。（検証項目） <ul style="list-style-type: none"> ・発生事象、現在のプラントの状況、線量の状況等の現況 ・発生事象により懸念される事項、事故の進展予測（環境に与える影響含む） ・事故の進展予測を踏まえた事故収束に向けた対策の優先順位、完了の時間的見通し ・事故収束に向けた対応戦略の進捗状況 		

令和5年度 JAEA高速増殖原型炉もんじゅ 原子力防災訓練 課題チェックリスト

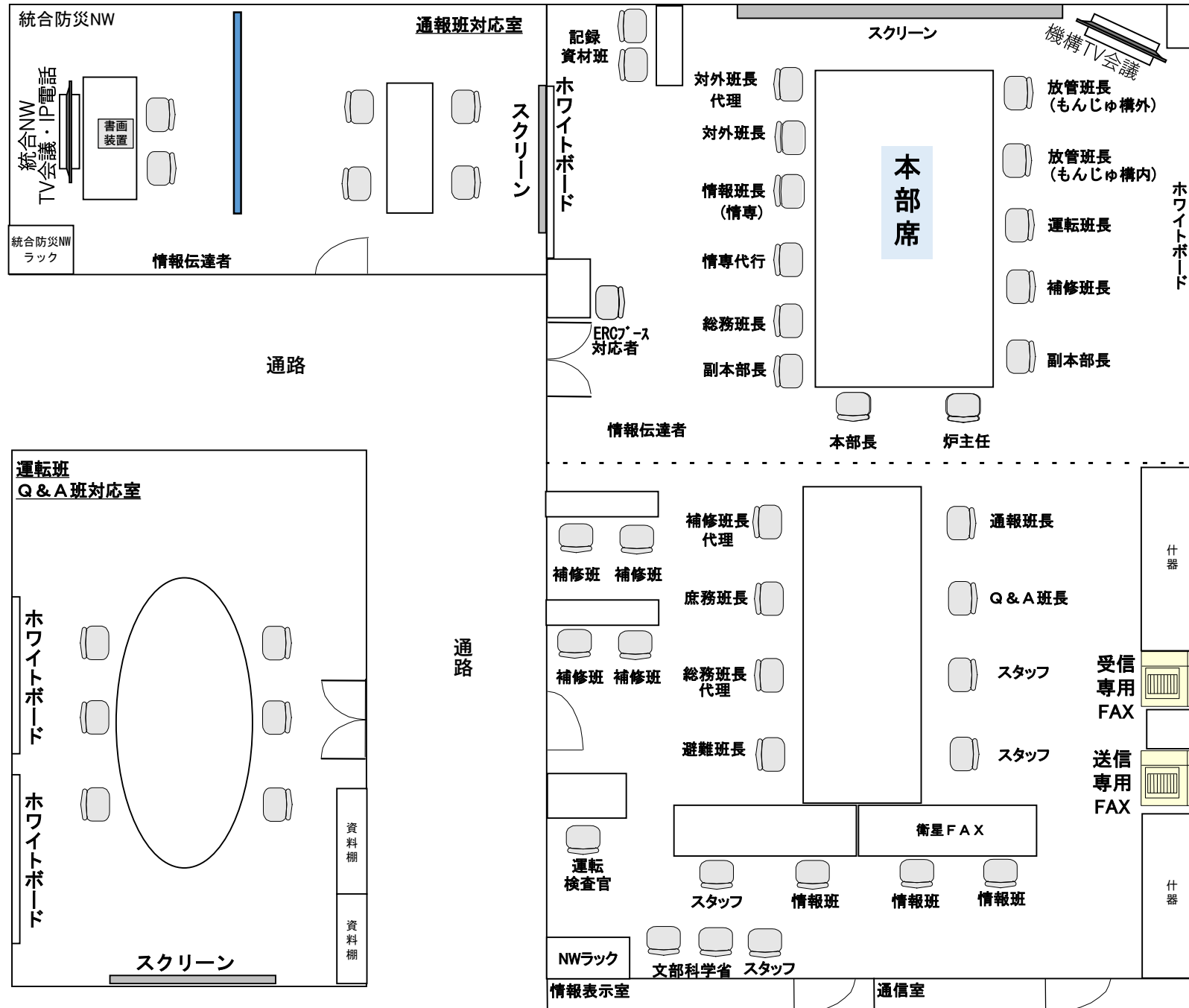
		昨年度訓練において抽出した改善点	評価欄			評価担当
			確認箇所	有効性の評価基準	確認結果	
高速増殖原型炉もんじゅ	N o. 1	<p><問題点①> 現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01の「事象進展対策シート」の対策の方針Bの「準備」に関する項目について、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行わなかった。</p> <p><課題> 現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01に係る「準備」、「対策」に関する項目について、現地対策本部から機構TV会議システムで適宜発話していたものの、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができていない。</p> <p><原因> 現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEAL01に該当する予兆(14時10分のMPの指示値上昇開始)を確認した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うという認識が薄かった。</p> <p><対策> 現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うことについて、現地対策本部要員に対して「発話ポイント」を用いて再教育を行うとともに、今後の訓練を通じて習熟を図った。</p>	第1・2部訓練	<p>・現地対策本部</p> <p>現地対策本部は、敦賀対策本部及び機構対策本部に対してEALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができたか。</p>	<p>確認結果【 】</p> <p>実績:</p> <p>備考 良好な点:</p> <p>改善を要する点:</p>	
	N o. 2	<p><更なる改善事項①> 災害対策資料のEAL30添付図-2「EAL30使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失・放射線放出 燃料池水位と放射線モニタ指示値(AL, SE, GE到達予想時刻)」に原子炉補助建物ガンマ線エリアモニタ放射線当量率の数値をプロットし情報共有していたが、測定範囲を超えた際に注釈を記載しなかったため、途中でプロットが中断された理由が分かりにくかった。</p> <p><対策> 災害対策資料を用いた情報共有において、測定範囲超過により数値のプロットを中断する場合は注釈を記載することを「情報班手引き」に明記した。</p>	要素訓練	<p>災害対策資料を用いた情報共有において、測定範囲超過により数値のプロットを中断する場合は注釈を記載できたか。</p>	<p>確認結果【 】</p> <p>実績:</p> <p>備考 良好な点:</p> <p>改善を要する点:</p>	
	N o. 3	<p><更なる改善事項②> 現地対策本部内で情報共有していたERSSのモニタリングポストのトレンド表示について、空間線量率が急上昇した際にスケール変更操作に手間取り1~2分程オーバースケールさせてしまった。</p> <p><対策> ERSSのトレンド表示のスケール変更操作方法を「ERSS表示用PC簡易操作説明書」に明記し配備した。</p>	要素訓練	<p>ERSSのトレンド表示がオーバースケールする前にスケールを変更できたか。</p>	<p>確認結果【 】</p> <p>実績:</p> <p>備考 良好な点:</p> <p>改善を要する点:</p>	
機構本部	N o. 1	<p><問題点> ERCへの発話時に説明内容を十分に整理できておらず、所々で発生時刻や発生場所、数値の単位が抜けた断片的な情報共有となった。また、5W1H(When(いつ)、Where(どこで)、Who(誰が・何が)、What(何を)、Why(なぜ)、How(どうやって))の説明順が発話ごとによって変わってしまい、聞き手が分かりづらい発話を行った。</p> <p><課題> 発話前に説明内容を十分に整理してから発話できず、断片的な情報共有となった。</p> <p><原因> ① 発話する情報の順番に留意して発話できていない。 ② 提供する情報を収集する情報収集担当者及びその情報を整理する情報整理担当者が情報を十分に整理できていない。</p> <p><対策> ① 5W1Hについての具体的な発話例を「発話ポイント」に明記する。その内容を発話者及び情報整理担当者に対して再教育し、発話順について一貫性を持たせた。 ・発話順の例:When(いつ)、Where(どこで)、Who(誰が・何が)、What(何を)、Why(なぜ)、How(どうやって) ・発話例:「[When]〇〇時〇〇分、[Where]□□施設の燃料プール循環系統バルブ△△において、[Who]施設点検中の作業員が[What]プール水の漏えいを発見した。[Why]直前に発生した地震による影響と思われる、[How]今後の対策として漏えい箇所の隔離とプール水の補給を実施する。」 ② 情報収集担当者が5W1Hの順に沿って情報を整理しやすいように連絡メモ様式を見直し、情報の記載方法について教育を行った。</p>	第1部訓練	<p>・機構対策本部 ERCブース</p> <p>5W1Hを意識してERCへ分かりやすく説明できたか。</p>	<p>確認結果【 】</p> <p>実績:</p> <p>備考 良好な点:</p> <p>改善を要する点:</p>	

確認結果【 】は、実施できた場合はA、ある程度できた場合はB、実施できていない場合はCを記載する。

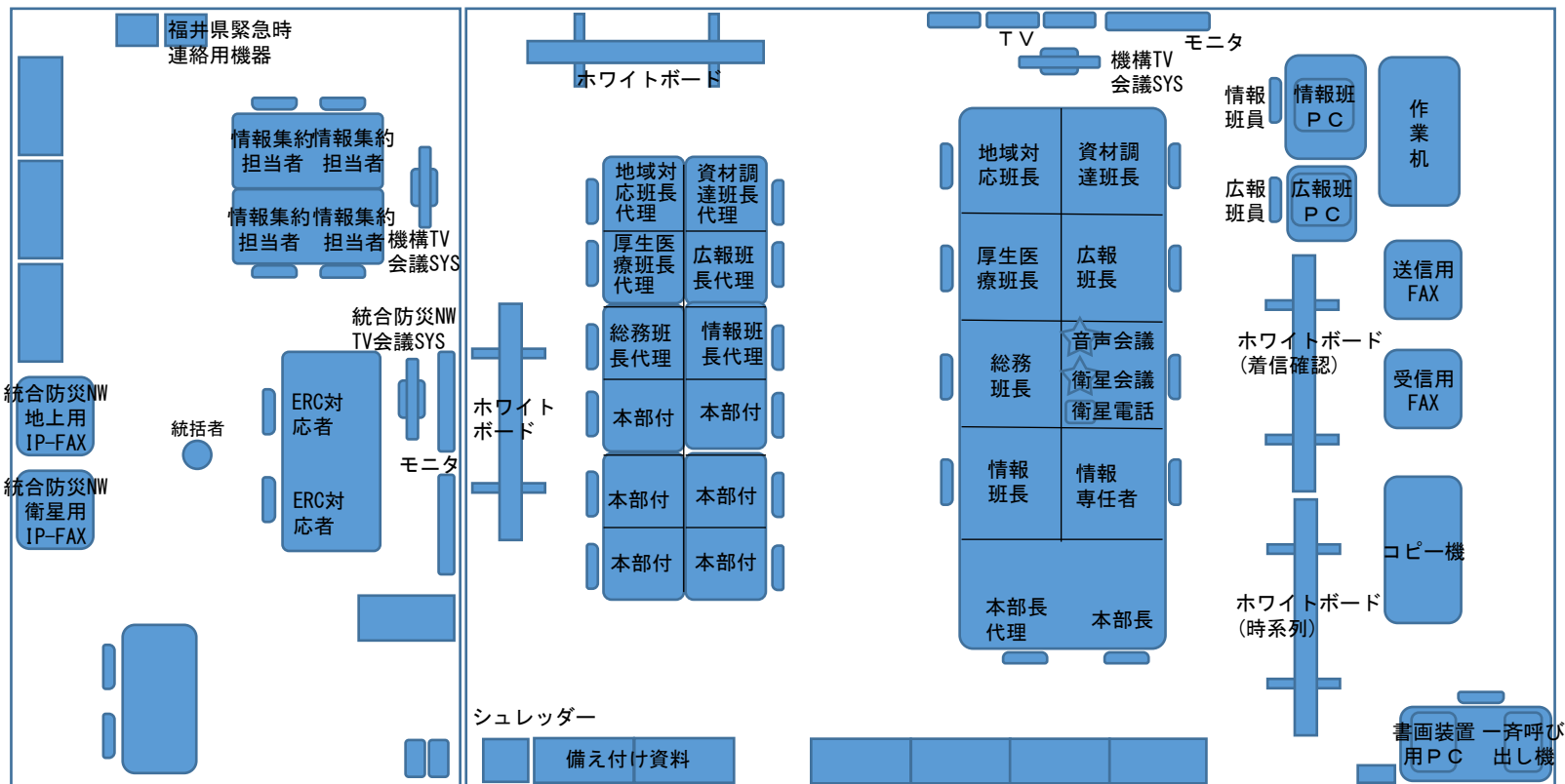
「5. 訓練シナリオ」は非公開
(シナリオに係る箇所のため)

もんじゅ現地対策本部の配置図

2023.1.10

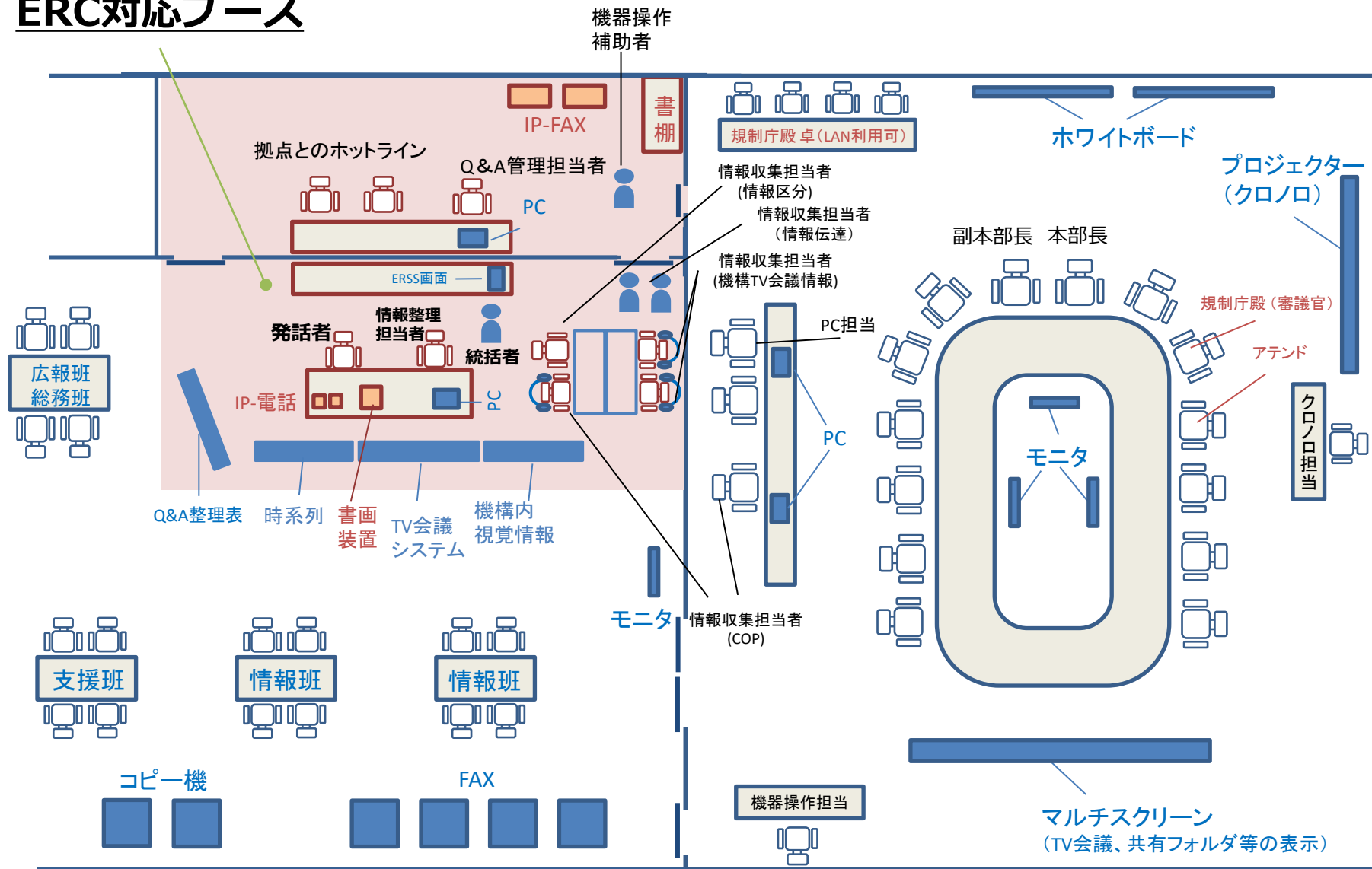


敦賀対策本部の配置図



機構対策本部（即応センター）のレイアウト

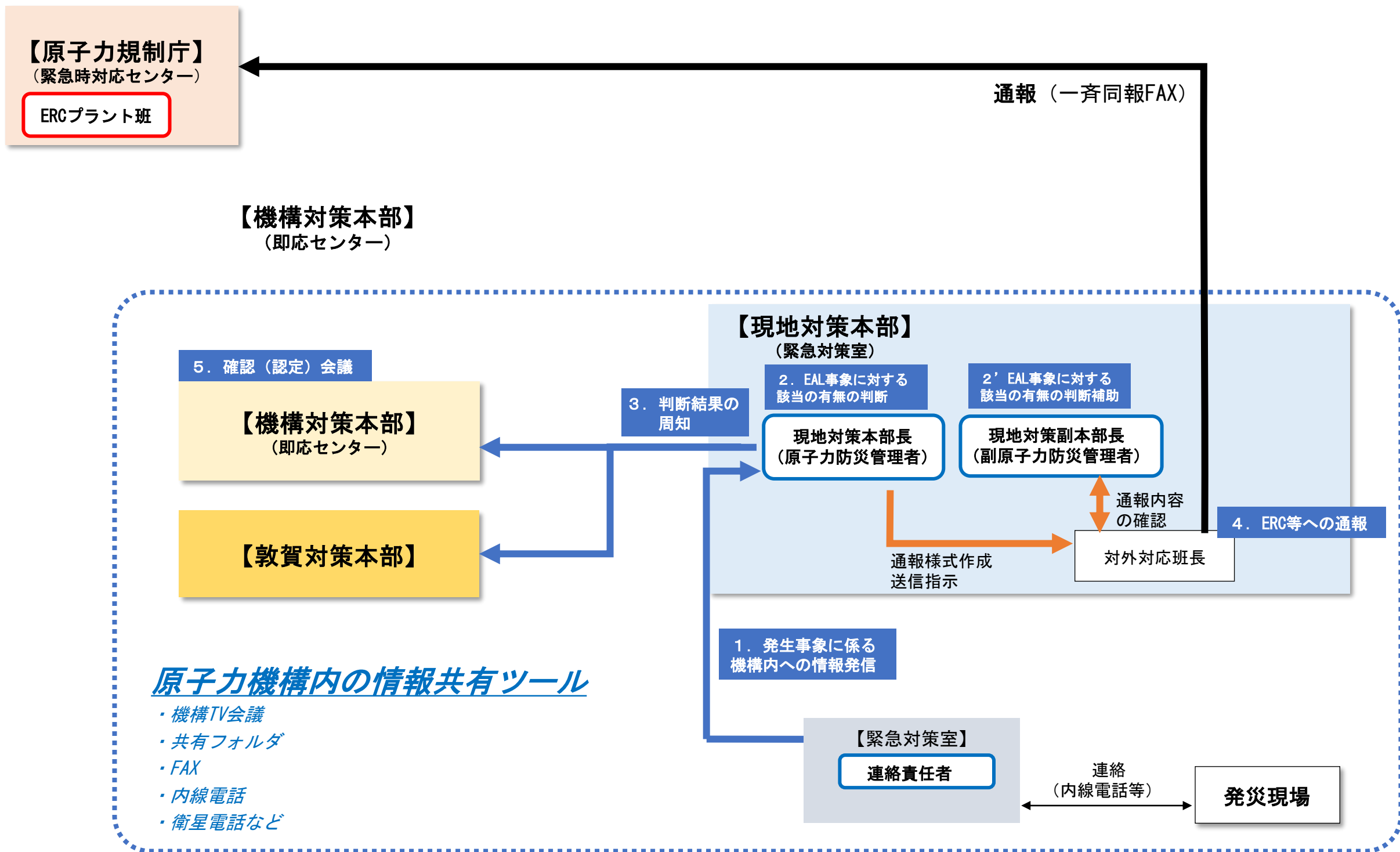
ERC対応ブース



※ERC対応ブース内の配置については変更になる可能性がある。

JAEA情報提供フロー

令和5年11月14日 もんじゅ

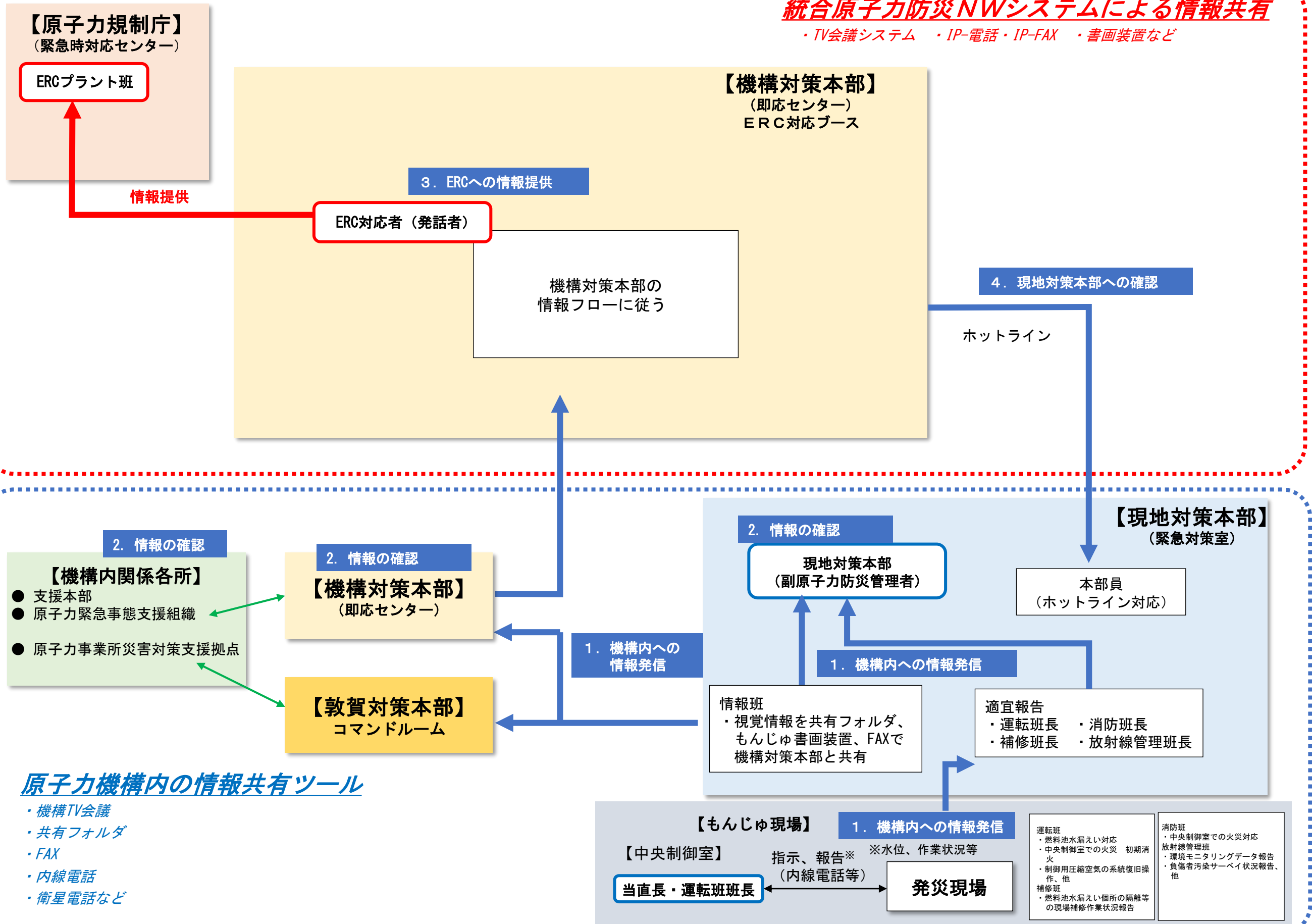


情報提供フロー（①EALに関する情報）

実施内容	1. 発生事象に係る 機構内への情報発信	2. EAL事象への該当 の有無の判断	2' EAL事象への該当 の有無の判断補助	3. 判断結果の周知	4. ERC等への通報	5. 確認(認定)会議
実施者	緊急対策室	現地対策本部	現地対策本部	現地対策本部	現地対策本部	機構対策本部
	連絡責任者	現地対策本部長 (原子力防災管理者)	現地対策副本部長 (副原子力防災管理者)	現地対策本部長 (原子力防災管理者)	対外対応班	機構対策本部 副本部長
時期	事象確認後、直ちに	判断に必要な情報入手後、直ちに	随時	判断後、直ちに	EAL事象判断後、15分以内	会議開催の都度
方法	・FAX (機構TV会議) (共有フォルダ) (視覚情報の共有)	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	通報様式を作成しFAX による送信	統合防災NW ・TV会議 ・書画装置等
主な資料	・通報様式 ・「もんじゅ」概略系統図	・通報様式 ・発生事象状況確認 シート ・「もんじゅ」概略系統図	・通報様式 ・発生事象状況確認 シート ・「もんじゅ」概略系統図	・通報様式 ・発生事象状況確認 シート ・「もんじゅ」概略系統図	・通報様式 ・発生事象状況確認 シート ・「もんじゅ」概略系統図	・通報様式 ・発生事象状況確認 シート ・「もんじゅ」概略系統図
備考			EAL判断における現地 対策本部長のサポート を実施する		送信前に現地対策本 部内で内容を確認	

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話 ・IP-FAX ・書画装置など



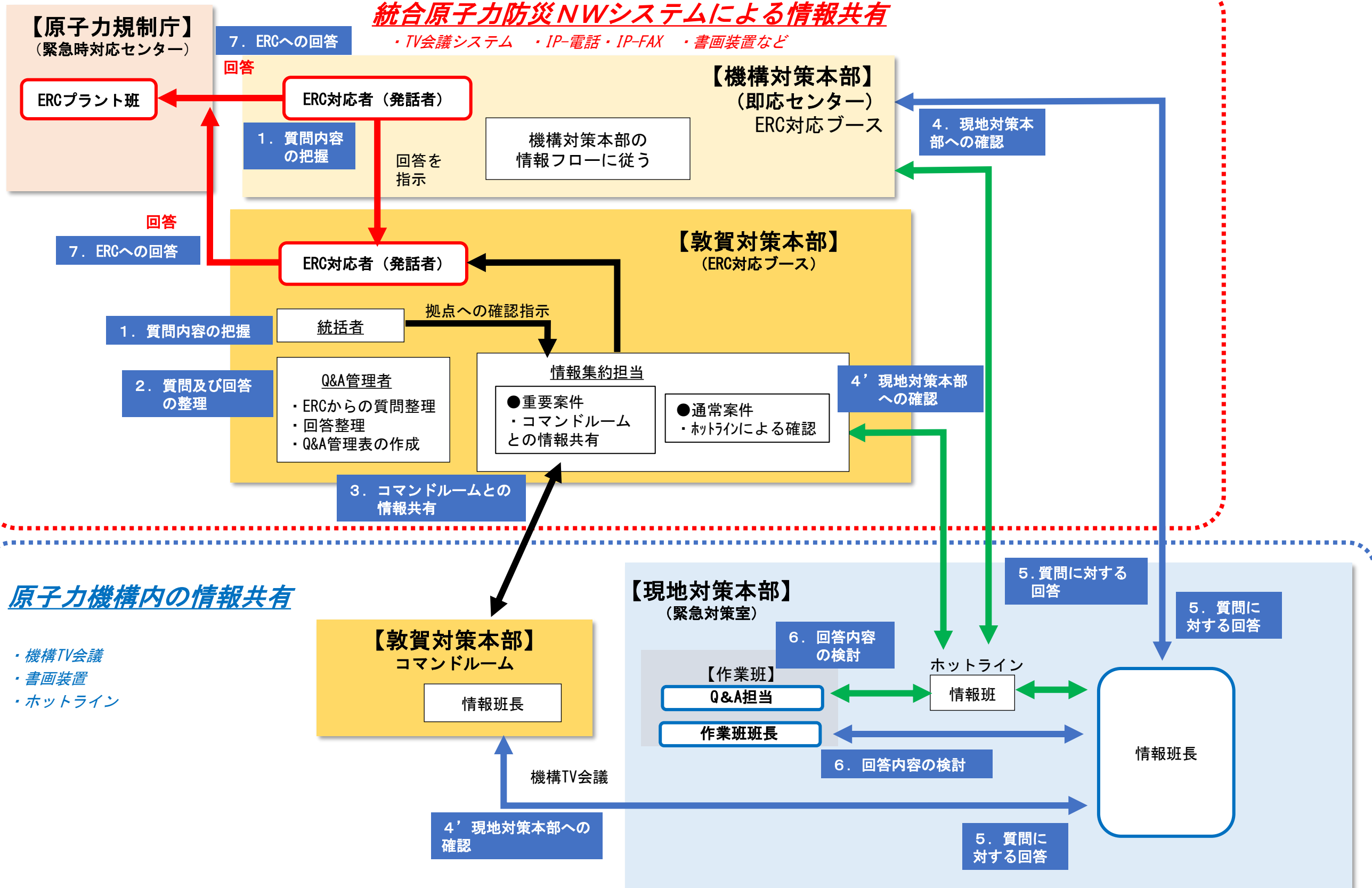
情報提供フロー (②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況) 3

②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況

実施内容		1. 発生事象及びその対応に係る機構内への情報発信			2. 情報の確認		3. ERCへの情報提供	4. 現地対策本部への確認
		発災施設に関する情報	もんじゅに関する情報	災害対策支援拠点等に関する情報	もんじゅに関する情報	災害対策支援拠点等に関する情報		
実施者	中央制御室 現場	現地対策本部	機構対策本部	現地対策本部	・機構対策本部 ・敦賀対策本部	機構対策本部	機構対策本部	
	運転班長 補修班長 消防班長 放射線管理班長	情報班長	支援班長	現地対策本部 (副原子力防災管理者)	・機構対策本部長 ・敦賀対策本部長	ERC対応ブース ERC対応者	ERC対応ブース 統括者	
時期	事象確認後、速やかに	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに 状況に変化がない場合は適切な時間間隔で	情報の確認が必要な時	
方法	・FAX ・PHS	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	・機構TV会議	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・FAX ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	・機構TV会議	・統合防災NW ・TV会議 ・書画装置等	・ホットライン	
主な資料	事故・プラントの状況	<ul style="list-style-type: none"> 「もんじゅ」プラントデータ 放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> 通報様式 発生事象状況確認シート 事象進展対策シート 「もんじゅ」プラントデータ 「もんじゅ」概略系統図 放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> 資機材リスト及び派遣要員リスト等 	<ul style="list-style-type: none"> 通報様式 発生事象状況確認シート 事象進展対策シート 「もんじゅ」プラントデータ 「もんじゅ」概略系統図 放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> 資機材リスト及び派遣要員リスト等 	<ul style="list-style-type: none"> 通報様式 発生事象状況確認シート 事象進展対策シート 「もんじゅ」プラントデータ 「もんじゅ」概略系統図 放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況
	事故収束対応戦略							
	戦略の進捗状況							
備考	視覚情報はFAXで現地対策本部へ送付	視覚情報は共有フォルダで即応センターと共有		情報の了承を行う 疑義があれば再確認を促す				

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話 ・IP-FAX ・書画装置など



原子力機構内の情報共有

- ・機構TV会議
- ・書画装置
- ・ホットライン

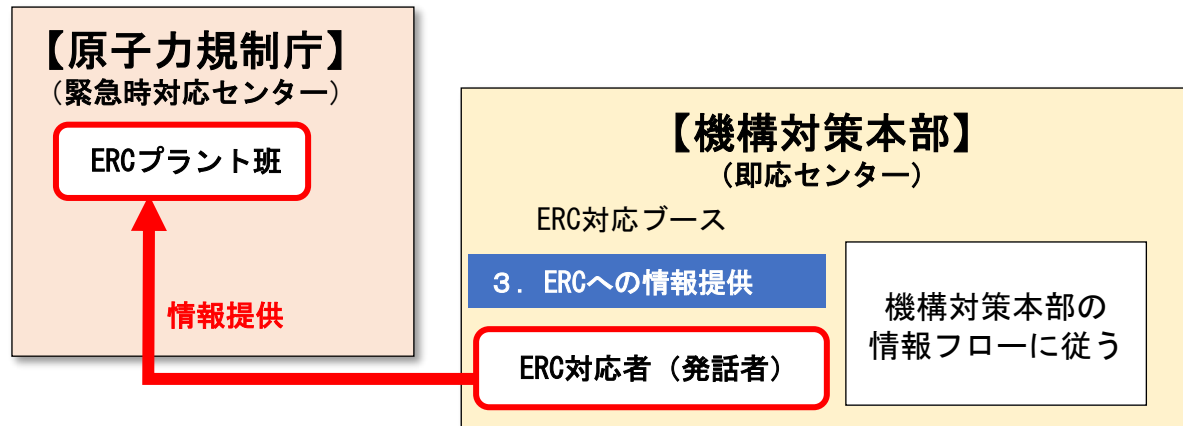
※全体で共有すべき重要案件については機構TV会議上で確認・共有する。
通常案件についてはホットラインで個別に確認する。

⑤ E R C プラント班からの質問への回答

実施内容	1. 質問内容の把握(重要案件と通常案件への分類)	2. 質問及び回答の整理	3. コマンドルームとの情報共有	4. 現地対策本部への確認	4' 現地対策本部への確認	5. 質問に対する回答	6. 回答内容の検討	7. ERCへの回答
実施者	・機構対策本部 ・敦賀対策本部	敦賀対策本部	敦賀対策本部	機構対策本部	敦賀対策本部	現地対策本部	現地対策本部	・機構対策本部 ・敦賀対策本部
	ERC対応ブース 統括者	ERC対応ブース Q&A管理者	ERC対応ブース 情報集約担当	情報班長	・情報班長 ・ERC対応ブース 情報集約担当	・情報班長 ・情報班	作業班班長 Q&A担当	ERC対応ブース ERC対応者
時期	質問を入手後、速やかに	質問入手又は回答の都度	質問を入手後、速やかに	質問を入手後、速やかに	質問を入手後、速やかに	速やかに	質問を入手後、速やかに	速やかに
方法	・機構TV会議 ・共有フォルダ ・画像配信システム(視覚情報の共有)	・ERCブース内での画面表示 ・共有フォルダ、	—	・機構TV会議 ・ホットライン ・共有フォルダ (ERC質問対応状況の確認)	・機構TV会議 ・ホットライン ・共有フォルダ (ERC質問対応状況の確認)	・機構TV会議 ・ホットライン ・もんじゅ書画装置 (視覚情報の共有)	・機構TV会議 ・ホットライン	・統合防災NWシステム ・TV会議 ・書画装置等
主な資料	—	・Q&A管理表	—	—	—	—	—	—
備考	ERC対応者(現地対策本部を含む)は可能な範囲で即答 即答できない場合は「3. 拠点への確認」へ	・Q&A管理表を現地対策本部と共有する ・回答の優先度の判断を行う ・回答の実績確認を行う				可能な範囲で即答 即答できない場合は「5. 回答内容の検討」へ		

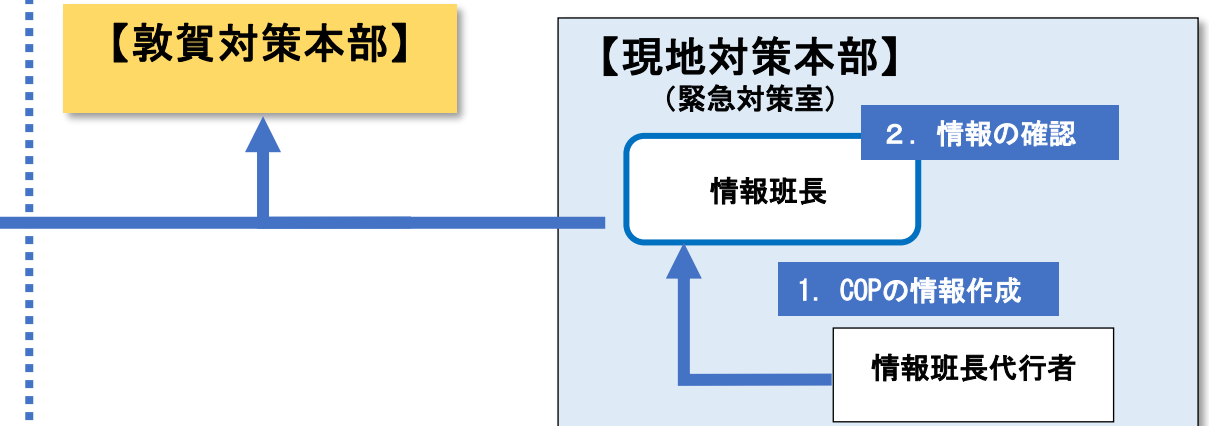
統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム ・IP-電話・IP-FAX ・書画装置など



原子力機構内の情報共有ツール

・機構TV会議 ・共有フォルダ ・書画装置



実施内容	1. COPの情報作成	2. 情報の確認	3. ERCへの情報提供
実施者	現地对策本部 情報班長代行者	現地对策本部 情報班長	機構対策本部 ERC対応ブース ERC対応者
時期	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに	情報を入手後、速やかに
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・書画装置 (視覚情報の共有) ・共有フォルダ 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構TV会議 ・書画装置 (視覚情報の共有) ・共有フォルダ 	統合防災NW <ul style="list-style-type: none"> ・TV会議 ・書画装置 ・IP-電話、IP-FAX
主な資料	<ul style="list-style-type: none"> ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生事象状況確認シート ・事象進展対策シート ・プラントデータ ・概略系統図 ・放管データ
備考		情報の了承を行う 疑義があれば再確認を促す	

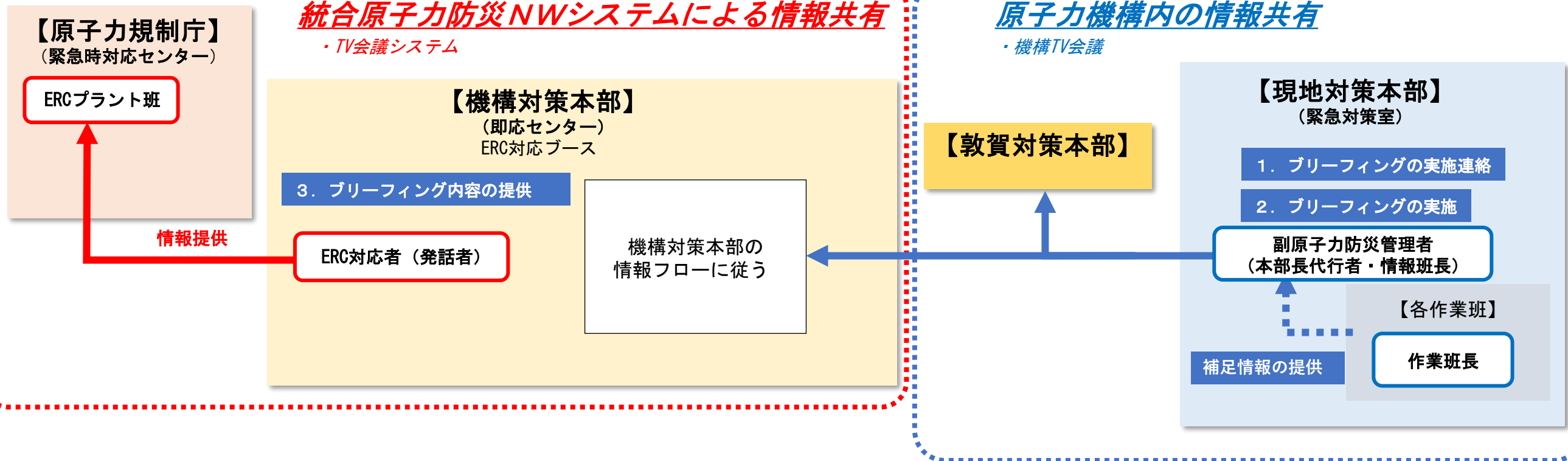
情報提供フロー(⑥COPの流れ)

統合原子力防災NWシステムによる情報共有

・TV会議システム

原子力機構内の情報共有

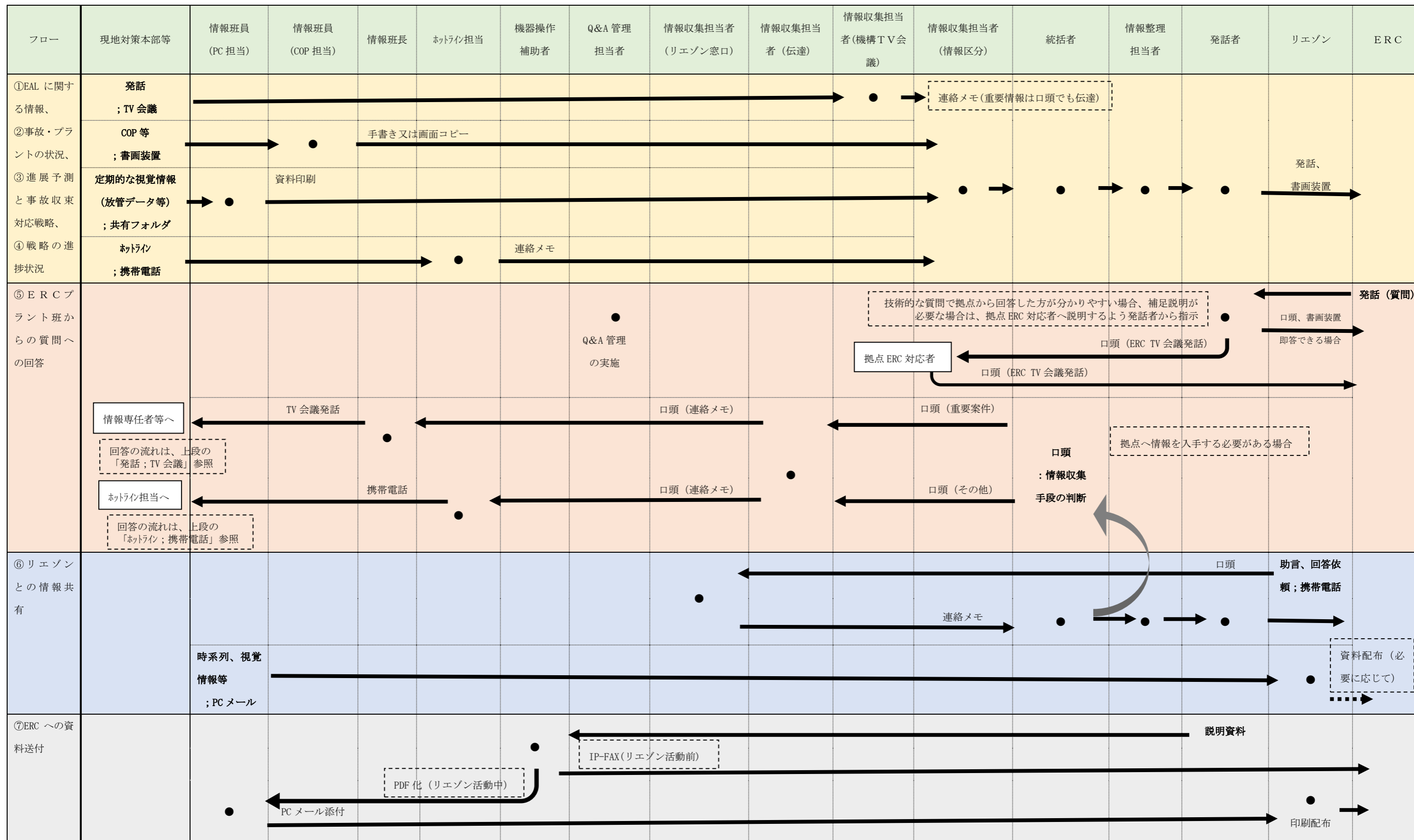
・機構TV会議



実施内容	1. ブリーフィングの実施連絡	2. ブリーフィングの実施	(補足情報の提供)	3. ブリーフィング内容の提供
実施者	現地対策本部 副原子力防災管理者 (本部長代行者・情報班長)	現地対策本部 副原子力防災管理者 (本部長代行者・情報班長)	現地対策本部 各作業班班長 (運転班、補修班、消防班、放管班)	機構対策本部 ERC対応ブース ERC対応者
時期	情報がある程度まとまったタイミング	情報がある程度まとまったタイミング	必要の都度	情報入手後、速やかに
方法	・機構TV会議による発話	・機構TV会議による発話 ・もんじゅ書画装置による視覚情報	・機構TV会議による発話 ・もんじゅ書画装置による視覚情報	・統合防災NWシステム ・TV会議システム ・書画装置等
主な資料	—	・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート	・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート	・事象進展対策シート ・発生事象状況確認シート
備考	ブリーフィング開始する旨、事前に周知を行う	「開始」、「終了」の宣言を行う。 これまでの情報を整理し、事象の状況、進展、対策について情報共有を行う	事象進展予測、応急措置等について発話する。	

情報提供フロー (⑦ブリーフィングの実施)

即応センター；機構対策本部の情報フロー



原子力事業者防災訓練の継続的改善スケジュール (PDCA) もんじゅ

	実施事項	R5 年度										R6 年度		備考	
		～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月～		
CHECK	○R4 年度訓練報告書 (もんじゅ)	▼													4/11 届出
ACTION	○改善策の具体化														
	①災害対策資料を用いた情報共有を行う時期の再教育	▼													6/23
	②「情報班手引き」の改訂	▼													6/23
	③「ERSS 表示用 PC 簡易操作説明書」の改訂	▼													6/23
	○中期計画														
	・高速増殖原型炉もんじゅ中期計画の単年度評価、見直し					■									
	○教育訓練														
	・個別訓練	▼			▼	■									
○他事業者訓練等の視察														随時実施	
PLAN	○R5 年度訓練計画策定						▽								
DO	○R5 年度訓練実施							▽							12/22
	○総合防災訓練 (その他の訓練)														
	・支援組織との連携訓練 (実働)	▼													6/30
CHECK	○訓練評価														
	・自己評価								■						
	・対策の有効性評価								■						
	・パンチリスト対応								■						
	・課題の抽出、原因分析、対策検討								■						
ACTION	○改善策の具体化										■				
	○中期計画の単年度評価、見直し												■		
	○教育、訓練の実施												■		

原子力事業者防災訓練の継続的改善スケジュール（PDCA） 敦賀対策本部

	実施事項	令和5年度										令和6年度		備考	
		～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月		
CHECK	○令和4年度訓練報告書（ふげん・もんじゅ）														
	○原子力事業者防災訓練報告会		▼												7/26
ACTION	○中期計画														
	・敦賀対策本部 中期計画令和4年度の評価	▼													5/8
	○教育・訓練														
	①ERC対応要員教育														
	・対応マニュアルに係る教育					▬	▬	▬	▬						10/10
	・災害対策資料に係る教育					▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼			9/6、9/26、10/2、 10/5、10/10、10/12、 10/16、10/26、11/6
	・個別訓練					▬	▬		▬						10/10、10/12
	②総合防災訓練対応														
	・マニュアル等に係る教育					▬	▬	▬	▬						10/10
	・個別訓練	▼公表訓練					▼公表訓練					▽公表訓練			5/23、9/29
③他事業者訓練等の視察														随時実施	
PLAN	○中期計画														
	・敦賀対策本部 中期計画改訂														必要に応じて実施
DO	○令和5年度訓練実施														
	・新型転換炉原型炉ふげん							▼							10/17
	・高速増殖炉原型炉もんじゅ									▽					12/22
	○総合防災訓練（その他の訓練）														
	・支援組織との連携訓練		▼												6/30
CHECK	○訓練評価														
	・自己評価														
	・対策の有効性評価														
	・パンチリスト対応														
	・課題の抽出、原因分析、対策検討														
ACTION	○改善策の具体化														
	○中期計画の単年度評価、見直し														
	○教育、訓練の実施														

原子力事業者防災訓練の継続的改善スケジュール（PDCA） 機構本部

	実施事項	R5年						R6年					備考		
		～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		5月～	
CHECK	○R4年度訓練報告書（各拠点）	■													
ACTION	○改善策の具体化														
	①前年度課題の整理、拠点への水平展開	▼												5/19 担当課長会議開催	
	②マニュアル改訂	▼												6/30	
	③災害対策資料に係る勉強会				▼	▼		▽	▽	▽				拠点と連動して実施	
	○中期計画														
	・各拠点訓練中期計画単年度評価の取りまとめ、機構大中期計画方針の策定	▼												6/20	
	・機構対策本部中期計画の単年度評価、策定	▼												6/20	
	○教育訓練														
	・防災教育			▼											8/29
	・情報共有訓練				■									拠点と連動して実施	
○他事業者訓練等の視察				■									随時実施		
PLAN	○R5年度訓練計画策定（各拠点）		■											拠点と連動して実施	
DO	○R5年度訓練実施														
	・人形峠環境技術センター				▼									9/19	
	・新型転換炉原型炉ふげん					▼								10/17	
	・高速増殖原型炉もんじゅ							▽						12/22	
	・原子力科学研究所、大洗研究所								▽					1/19	
	・核燃料サイクル工学研究所									▽				2/13	
	○個別訓練														
・支援組織との連携訓練（実働）	▼				▼								6/30（敦賀）、10/27（茨城）		
CHECK	○訓練評価														
	・自己評価					■									
	・対策の有効性評価					■									
	・パンチリスト対応（課題の抽出、原因分析、対策検討）					■									
ACTION	○改善策の具体化											■			
	○中期計画の単年度評価、見直し												■		
	○教育、訓練の実施												■		

統合原子力防災ネットワークシステムのTV会議における発話ポイント（即応センターERC対応者）

原子力災害発生時において、政府は住民避難の要否の判断を求められる。このため、即応センターである機構本部はERCプラント班に対して、原子力施設の事故の現状のみならず、事故の進展予測、収束対応戦略、その進捗状況といった情報を迅速かつ正確に提供することに努める。

○下記情報を、COP等を用い視覚的に分かりやすく情報共有すること

○仮に拠点においてCOPが更新されていない場合でも、手元にあるCOPに手書きで記載すること等により情報共有すること

報告事項	具体的な内容
<p>①事故・施設の現状 ●発生事象、現在のプラントの状況、線量の状況等の現況に係る速やかな情報共有</p>	<p>（情報例） 事象発生前の稼働状況 : ・定格出力30MWで運転していた。 現在の稼働状況 : ・地震により原子炉がスクラム。 警報の有無 : ・地震発生前から「一次冷却材放射能高警報」が吹鳴しており原因調査中。 電源の状態 : ・地震により商用電源が喪失し非常用発電機が起動。 付属設備の状況、その他 : ・商用電源断により主冷却設備が停止したが、非常用発電機からの給電により補助冷却設備は稼働中。 ※特に初動の段階で、上記の情報を整理して説明する。</p> <p>（発話例）</p>
<p>②事故の進展予測と収束対応戦略 ●発生事象により何が懸念され、今後何時間でどのような状態に至るのかといった事故の進展予測についての情報共有 ●進展予測を踏まえ、事故収束に向けどのような対応策を講じるのか、各対応策の優先順位、完了の時間的見通しといった収束対応戦略に係る情報共有</p>	<p>（情報例）水位の低下予測、環境に対する影響予測、発出が想定されるEAL（予想時間）等 戦略の内容、戦略の優先順位（二の矢・三の矢、戦略に用いる対象設備と準備着手・完了予定時刻等）等</p> <p>（発話例） ・炉心冷却機能が喪失しており、炉心損傷予測時間は**:**、EAL**になると見込まれる。 ・HAW廃液貯槽の温度上昇により希ガスが発生し、施設外へ影響を及ぼす可能性があるが、収束対応戦略に影響なし。 ・A系の余熱除去ポンプは故障で起動不能（原因調査中）。可搬式ポンプによる代替注水作業の準備を行い、あと**分程度で炉心冷却を再開予定。</p>
<p>③戦略の進捗状況 ●事故収束に向けた対応戦略の進捗状況に係る情報共有</p>	<p>（情報例）各戦略の進捗状況、対象設備の状況（準備着手時刻、所要時間、完了（予定）時刻）等</p> <p>（発話例） ・建屋亀裂箇所へのシート養生の実施に向けて、資機材の準備を**:**に開始。 ・臨界収束措置としてGd溶液を貯槽へ移送する作業は、〇〇分後（**:**頃）に完了予定。</p>

※対応中に発話する情報【5W1H】の順番を決めて発話することを心掛ける（発話ごとに順番を二転三転させない）

例：○時○分(When)、△施設で(Where)、作業員が(Who)、右足を打撲し負傷(What)、階段で資機材を運搬中に転倒した模様(Why/How)